

# スマホGPSアプリ講習会

静岡市山岳連盟常任理事 東誠司

## 1 目的

山岳遭難原因の1位は道迷いで全体の4割を越え、携帯電話が広く普及したものの登山道の多くは携帯圏外の山奥であり、通信手段が絶たれた場合の遭難者の救助及び捜索は困難を極める状況となる。

携帯圏外で、スマホのGPSが機能することは意外と知られていない。ネットに繋がっていないと地図アプリは表示できないものが多いため、皮肉にもスマホはオフライン状態でカメラとして利用されているにすぎない。

そこで、ネット回線に繋がっていない状況でも、国土地理院地図、現在地座標、標高、目的地まで距離、方位などが表示できるGPS機能を利用したアプリを広く普及させ、ホワイトアウトなどの緊急時にも対応し、道迷いの未然防止、遭難事故防止を図りたい。

まずは、静岡市山岳連盟所属会員に対し講習会を開催し、広く普及を図り、静岡市が管理する「みどりの道」の管理用データ収集につなげるなど活用していく。

## 2 体制

講習スタッフ：チーフ東、サブ藤田（静岡踏岳会）

支援スタッフ：増田遭対委員長、辻山岳レスキュー担当者、磯部常任理事

## 3 受講者及び選抜条件

- (1) 対象：市岳連所属山岳会から若手会員を数名ずつ選抜（合計30名程度）
- (2) 選抜条件：所属山岳会への普及を図ることを条件に、オフライン環境でも使える『キャッシュ型オフラインGPSアプリ』Geographica（ジオグラフィカ）を使用できるスペックを持ったiPhone, Android携帯を所有する者

## 4 スケジュール

時 期	内 容
3月	講習会準備・打ち合わせ
4月25日	募集
5月15日	講習（座学及び初級実習） <b>静岡市北部生涯学習センター</b>
6月～	みどりの道パトロールにて試行
8月	講習（中級実習）試行で得られたデータの活用
10月	効果検証について理事会報告

## 5 講習内容の概要

### (1) 座学

なぜスマホGPSか	開発者の意図、特徴を知る
どんなことができるか	ガーミンと対比してみる
課題・注意点	端末機種、搭載OS、アプリの課金、バッテリー
知っておくこと	人工衛星、真北・磁北とは
用語	ルート、トラック、マーカー、ファイル形式

### (2) 実習

初級編	中級編	将来に向けた活用編
ボタンの説明 ログの記録 マーカー入力 計画ルート入力 座標の送信	カスタム地図の利用 山行記録の通信で交換 山行記録を他のアプリで活用 ログやマーカーの登録	パトロール報告書（要対策箇所、危険箇所、実施箇所等の記録） 危険箇所の gpx 形式入出力 公開データベース登録 遭難捜索範囲の計画・記録など